

全小・社研

・発行所
・全国小学校社会科研究協議会
・東京都板橋区上板橋1-3-1
・発行人 和田 幹 夫
・編集人 小 澤 伸 生

社会科教育の課題と改善策について

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官

小 倉 勝 登



社会科の授業は「単元で考える」

小学校社会科において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善は、端的に言えば、問題解決的な学習過程の充実である。これを実現するには、児童が社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもつて他者と協働的に追究し、追究結果を振り返ってまとめたり、新たな問いを見いだしたりする学習過程などを工夫することが考えられる。

そのためには、教師が社会科の授業を「単元で考える」ことが重要である。

そこで、授業改善のポイントを整理すると次の三つである。

(1) 児童が社会的事象から学習問題を見だし、その解決への見通しをもって取り組むようにする。

問題解決的な学習過程の充実を図るには、単元全体を通して授業をデザインする必要がある。特に考えたいのは、単元の入り口である、子供が「問題解決の見通しをもつ」場面をどうデザインするか、である。この場面は「主体的な学び」の視点にとどまらず、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりにおいて極めて重要な鍵に

なる場面である。しかし、平成二十四年実施の学習指導要領実施状況調査教師質問紙を見ると、「児童の疑問を引き出すような資料提示の方法を工夫していませんか。」や「児童に予想に基づいて調べる計画を立てるよう指導していますか。」の問いに対して「そうしている」と回答した割合が他の項目と比べて低くなっている。ここが課題といえる。

○「問題解決の見通しをもつ」
「主体的な学び」の視点から大切にしたいことは、子供たちが学習の見通しをもつことである。学習の見通しをもつとは、子供たちが社会的事象と出合い、疑問や予想をもち、学習問題(問い)をつくり、生活経験や既習事項を基に学習問題の解決に向けて予想し、学習計画を立てる、といった「問題解決の見通しをもつ」ことである。

○「問題解決のために話し合う」
問題解決的な学習は、子供が社会的事象から問いをもち、解決の見通しを立て、資料などを活用して調べ、みんなで話し合ったり、考えたりしてまとめる(解決する)学習過程である。つまり、次に大切にしたいことは、「問題

解決のために話し合う」ことである。子供たちは、調べたことや考えたことを交流することで自分の考えを深めることができるからである。この場面についても、平成二十四年実施の学習指導要領実施状況調査教師質問紙において、「問題やテーマを決めて、討論する授業を行っていますか。」が他の項目と比べて「そうしている」という回答の割合が低い。社会科の学習において、議論したり討論したりということが、ここが課題といえる。

ここで大切なことは、話し合いが子供にとって必然性があり、友達と話し合うことで、自分の考えを広げ深めることにつながるという点である。子供たちの問いが明確で、解決したいけど、自分だけでは解決できないから、議論を通して考えを整理するのである。



北海道大会報告

北海道大会実行委員長
札幌市立八軒西小学校長 白崎 正

二〇二二年一〇月二十七日、秋の色彩輝く札幌大通公園に面するカナモトホール（札幌市民ホール）と札幌テレビ塔において、第六十回全国小学校社会科研究協議会研究大会北海道大会を盛会裏に終了することができました。和田幹夫会長はじめ、多くの皆様のご協力があった大会となりました。心より深くお礼を申し上げます。

【大会の前日まで】

大会実行委員会は、主に札幌市社会科教育連盟会員が担いました。「オンデマンド配信授業の充実」と「ストレスのない安全・安心な大会」の二点を合言葉に、総務、広報、情報、会場、研究、会計の各部門に分かれ、企画、準備に当たりました。

研究大会の命である十七本の授業配信には、徹底的にこだわりました。九月上旬から撮影、録画、編集を開始し、準備が整った授業から配信したことで、大会前に、参加する学年部会以外の授業も見えていただくことがで

きました。教室にはカメラ三台、集音マイク二本、ミキシング機材が入りました。画面を通して、あたたか目の前で授業が展開されているかのような、子どもの動き、表情、目線、つぶやき、息遣い、教師との間合い、それらをつぶさに感じ取っていただくことができる授業動画となりました。視聴された先生方には、追究の方向性がぐっと定まり、授業が動いていく様相をリアルタイムをもって感じ取っていただくことができたのではと思っています。大会当日を待たず、北海道の子どもの姿に、たくさんのお褒めの言葉をいただくことができたことは、私共にとって大きな励みとなりました。

【大会当日】

人数を制限して会場への参加者は、一八四名。オンライン参加者は、二五六名。事前の授業視聴のみを申し込まれたオンデマンド参加を含めると、五百名を超える参加がありました。参加者あつての研究大会です。このような形態の大会に多数の先生方が参加してくださったのは、ひとえに日本の社会科教育をリードする全国小学校社会科研究協議会の約六十年に渡る大会実績に裏打ちされた、全国の皆様からの大きな期待があったからに他なりません。

【記念シンポジウム・講演】

シンポジストに、澤井陽介先生（大妻女子大学教授）、石井正広校長（全小社研元調査研究部長）に登壇いただきました。

石井校長先生は、特設提案授業の子どもの姿から、「このような子どもを育てるには、三つの大切なことがある。一つ目は、互いに考えを伝え合う子どもの発言力。二つ目は、構造化された板書。三つ目は、子どもが本気になる魅力的な教材である。人物の営みや働き、マイナスをプラスに変える事例など、学習指導要領を踏まえて教材解釈して授業をしている。」とお話くださいました。そして、北海道の子どもたちは、問う力、自分で考える力があり、高め合う学級風土が築かれていること、「構造的な板書や人物の営みや働きを教材化するスタイルが世代を超えて受け継がれていること」をご指導くださいました。

澤井先生は、これからの北海道の社会科研究の方向性として「北海道の先生は、問いの中で『特色の理解』を意識しているのではなく、教材を子どもにどのよう、どのよう順番でとどけるかを考える」とよい、学習問題をつくるのが目的ではなく、学習の見通しをもつことが目的である。単元の最初に調べ始めるところは、最後の意志決定させる授業を目指したい。」とお話くださいました。

【学年別授業研究会】

改めて社会科における教材研究と単元構成のつくり方という原点に立ち返りつつも、これからの社会科授業づくりの方向性を示唆いただくシンポジウムとなりました。ご指導くださったお二人の先生に、厚く御礼申し上げます。

カナモトホール会場で五つ、テレビ塔会場で四つの分科会を持ちました。北海道に根差した教材化の授業提案について、全国から貴重な御意見をたくさんいただくことができました。北海道各地区代表の校長先生、指導主事の先生がご助言くださり、深い内容の話し合いとなりました。

研究の深化、改善へのご示唆をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

【小倉勝登先生の全体講演】大会全体の総括として、「北海道大会では特に三つの研究の柱が絡み合っており、本時と呼ばれる社会的現象を考える一時間に

道は社会科研究の方向性として「北海道の先生は、問いの中で『特色の理解』を意識しているのではなく、教材を子どもにどのよう、どのよう順番でとどけるかを考える」とよい、学習問題をつくるのが目的ではなく、学習の見通しをもつことが目的である。単元の最初に調べ始めるところは、最後の意志決定させる授業を目指したい。」とお話くださいました。



フォーカスして示されていた。」とし、全小社研の研究に期待することとして、次の三つを上げてくださいました。①学習指導要領の内容を踏まえた上でのブラッパフのある提案。特に教材の分析・吟味に力を入れる。②子どもの学びのプロセスを大切に学習過程。四十五分の授業が学習過程に位置付くことが重要。③問い、話し合い活動、「二端末」の効果的な活用など、問題解決的な学習過程の充実。大会実行委員一同、いただいたお言葉を胸に、大きな励みと充実感に満たされると同時にこれからの更なる研究推進に向けて、意を新たにす貴重な時間となりました。厚く御礼申し上げます。

本大会を終えるにあたり、大会運営、指導助言、研究推進に携わられた全ての方々に、改めて深く感謝の意を表します。本当にありがとうございました。



第六十一回

全国小学校社会科研究協議会研究大会

東京大会のご案内

東京大会 実行委員長
小金井市立小金井第三小学校長

増田 亮



一 はじめに

今から六十年前、第一回の全国大会を東京で開催して以来、十年ごとに東京で開催させていただいており、今回で七回を数えます。

前回の平成二十五年度の東京大会での研究成果を継承し、これまで都小社研のメンバーが一丸となって研究を深めてきました。未来を創る子供たちへ今どのような社会科授業が求められているのかを第一日の全体会で提案し、第二日の四つの学校会場で行われる公開授業の子供たちの姿で私たちの取組を皆様にお伝えしたいと考えております。

二 大会の概要

① 大会主題

社会とつながり未来を創る子供の育成く社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して

② 研究内容

未来のよりよい社会の形成者

の先生方から忌憚のないご意見を賜りたいと願っており、皆様のおいでを心よりお待ちしております。

③ 日時・会場・内容

第一日 令和五年十一月九日(木)

十三時～十六時四十五分

浅草公会堂

台東区浅草一―三八一六

開会行事・全体会・大会主題

提案・指導講評・記念講演・

閉会行事

第二日 令和五年十一月十日(金)

九時四十分～十六時半

第一会場 新宿区立四谷小学校

第二会場 小金井市立

第三会場 中央区立日本橋小学校

第四会場 世田谷区立代沢小学校

公開授業・全体会・指導講評

学年別授業研究会・学年別課

題研究会

④ 講師

第一日 全体会指導講評

文部科学省初等中等教育局課程教科調査

記念講演「江戸という時代」

東叡山輪王寺門跡主・寛永寺貫首

浦井 正明先生

第二日 学校会場指導講評

第一会場 大妻女子大学教授 澤井 陽介先生

第二会場 東京学芸大学教授 櫻井 眞治先生

第三会場 國学院大学教授 安野 功先生

第四会場 白百合女子大学教授 中田 正弘先生

全小社研事務局だより

全国小学校社会科研究協議会事務局
東京都世田谷区立代沢小学校長

諸角 哲男

全小社研の諸事業につきまして、各単位団体の理事、会員の皆様にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、各事業を進めていくところです。十月二十七日(木)の北海道大会の前日二十六日(水)に、ホテルライフォート札幌で、第一・二回理事会を会場参加とオンラインで開催いたしました。

一 次年度全国大会の予定

○第六十一回東京大会

令和五年十一月九日(木)

十日(金)

令和六年度に実施される二大会の日程も決定しました。

○第六十二回島根大会

令和六年十月三十一日(木)

十一月一日(金)

○令和六年度和歌山大会

令和七年二月六日(木)

七日(金)

二 研究集録第五八集の発行

今年度も個人論文の応募をいただきありがとうございます。二月末に、文部科学省教科調査官小倉勝登先生に論文審査をお願いし、優秀論文をまとめた研究集録を三月末に刊行し、配布いたします。

三 「各地域の動向」の作成

毎年度、各単位団体の組織・事業計画・研究校等を調査し、冊子

にまとめ、配布しておりますが、今年度は、配布が大幅に遅れましたことお詫び申し上げます。次年度は、作成依頼を早めに出します。各単位団体の新年度体制・活動内容が決まりましたら、作成の準備をお願いします。

四 会報「全小社研」の発行

年二回発行し、全小社研の活動が広く全国の会員の皆様に伝わるように努めております。今年度も百八号・百九号(本号)を発行いたしました。会報配布では、各単位団体事務局長様にご協力いただきありがとうございます。

五 ホームページの充実

全小社研のホームページには、各事業等の情報を掲載しております。各単位団体情報も随時掲載し、一層の充実を図りたいと思います。掲載やリンク希望は、事務局までお申し出ください。

六 個人会員の募集

全小社研の諸事業は、各単位団体と個人会員の会費等で成り立っています。社会科教育を一層発展充実させていくために、来年度も、多くの皆様の個人会員としての参加をお願いいたします。

個人会費 年額 一、五〇〇円

郵便振替口座番号

〇〇一〇〇一六二八二五五七

全国小学校社会科研究協議会

各都道府県の動向

石川県・鳥取県・広島県・山口県・熊本県

石川県

「石川県の取組」

石川県小学校社会科教育研究会

会長 小泉 敦嗣

本県では、研究主題を「子供自ら学びに向かい、公民としての資質・能力の基礎を養う社会科教育」とし、①子供が問題意識をもち、社会とのかかわりがわかる教材②子供の深い学びを実現する問題解決的な学習③子供が学習したことを次の学びにいかす評価と指導の三つの視点で実践研究を深めています。

今年度も授業のビデオを観ての授業研究を行い、「ドラックストア」や「美川のおかえり祭り」の教材化など、単元開発を進めています。教師の熱い思い、それに応え、一生懸命自分事として考え、深め合う子供達の姿を見ることができました。十二月には小倉調査官をお招きして、参加型で研究大会を行うこともできました。今後も、令和十年の全小社石川大会に向けて、研究理論を構築し、実践をさらに積み重ねていきたいと思えます。

鳥取県

「鳥取県の取組」

鳥取県小学校教育研究会社会部会

会長 田中 嘉彦

本県では、研究主題を「自己の考えを持ち、よりよい社会を形成しようとする子供を育てる社会科教育」社会とつながり、一人一人の見方・考え方を深める授業づくり」と設定し、①主体的に学び続けられる単元づくり、②地域社会に対する誇りと愛情を育む教材づくり、③社会的な見方・考え方を深める学習の工夫、④ICTの効果的な活用、の四点を意識しながら、日々の授業実践と研究に取り組んでいます。

令和五年十二月に鳥取市で第三十二回中国地区小学校社会科研究協議会研究大会（鳥取大会）を鳥取県民文化会館を会場としたサテライト方式にて開催いたします。これに向けて、「チーム鳥取」の全県体制で研究推進と大会運営に向けて準備を進めているところです。中国地区の会員の皆様、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

広島県

「広島県の取組」

広島県小学校教育研究会社会科部会

会長 阪田 淳二

本県では、研究主題を『社会を見つめ、未来を問い続ける社会科教育の創造』とし、実践研究に取り組んでいます。「どのように、どのような」という問いから、事象の過程や特色・構造を通して「社会を知る」、そして、「なぜ、どうして」と問うことから目的と手段、原因と結果の関係をつかみ、「社会がわかる」ように問題解決のプロセスを工夫改善しています。また、「何をすべきか、どのような解決が望ましいか」という問いにより、社会への参加・参画を模索していく学習を重視しています。

本年度は、第五十九回広島県小学校社会科教育研究大会を、三原市立本郷小学校を会場に、参加人数を制限した授業公開とともに、オンラインの活用によるハイブリッド方式で開催し、充実した研究大会となりました。令和九年の全国大会に向けて、本県の社会科教育充実に努めているところです。

山口県

「山口県の取組」

山口県小学校社会科教育研究会

会長 椿 英一

本県では、今年度より研究主題を「よりよい社会の実現をめざす子どもを育成する社会科学習」と設定し、社会的事象の見方・考え方を働かせる問題解決型の学習を展開することで、主題に迫るようにしています。

また、具体的な実践発表及び、協議の場として夏期特別研修会を開催しました。二つの実践発表に加え、澤井陽介先生による「令和の日本型の社会科授業を目指して」と題した講演もあり、県下各地より集まった先生方により熱心な協議が行われました。この会には若い先生方が多く参加しており、本県社会科教育の裾野を広げるよい機会となりました。この他にも人材育成の一環として、社会科授業研究に対する取組が顕著であるグループに対しては活動助成も行っています。

ここ二年、コロナ禍のため、研修会の開催もできない時期がありました。徐々にではありますが、今年度の取組を機に本県社会科教育の新たな発展を図ってまいります。

熊本県

「熊本県の取組」

熊本県小学校教育研究会社会科部会

会長 青木 透

令和五年二月二日、三日。ここ熊本におきまして、令和四年度全国小学校社会科研究協議会研究大会を開催いたします。

研究主題は「持続可能な社会の創り手を育てる社会科学習」です。時代が求める社会科学習の姿の一端をお見せできればと考えております。学びの中で獲得した知識をもとに意思決定をしていく学習過程、その基盤となるカリキュラム等。全国から集まった多くの先生方と熊本が提案する社会科学習の可能性を共に探ることができれば幸いです。

当然のことながら、新型コロナウイルス感染症対策も万全に実施したいと考えております。また、開催前にコロナウイルスが感染拡大した場合には公開授業と授業研究会等をオンラインにて実施する予定です。多数のご参加をお待ちしております。